

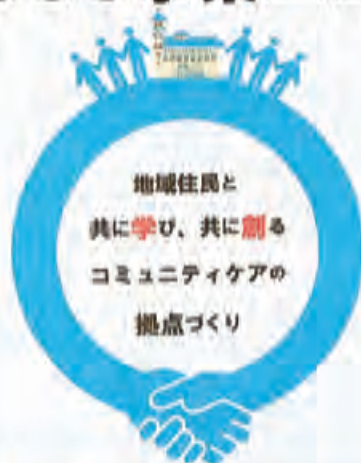
## 7 章 2015 年度 COC 事業広報関連資料

COC 事業ニュースレター2015 年夏号

COC 事業ニュースレター2015 年秋号

COC 事業ニュースレター2015 年冬号

COC 事業ニュースレター2016 年春号



# 市看×いちかん ちいき通信

## 2015年 夏号

2015年6月10日 発行

### 今号の内容



- P1. 市民による研究倫理審査  
はじまる
- ・ COCコラボ教育  
ピックアップ
- P2～3. COCフォーラム
- ・ 地域の顔  
(菅の台地区 藤原邦子さん)
  - ・ 地域づくり・健康づくり  
(須磨区社会福祉協議会  
榎一美紀さん)
  - ・ コラボ教育での学び  
(編入3年生 中塚絵理)
  - ・ COC研究ひろば 第3回  
(老年看護学 清水昌美)
- P4. 活動予定

「いちかん」(い)一緒に、(ち)地域づくりについて、(かん)考える をコンセプトにしています。

## 市民による研究倫理審査はじまる

神戸市看護大学 図書館長・人文科学分野 教授 松葉祥一

近年、STAP細胞をめぐる研究不正事件や、高血圧治療薬「ディオバン」の臨床研究データねつ造事件など、医学研究に関する不正がたびたび話題になっています。神戸市看護大学では、こうした研究不正を未然に防ぐとともに、研究対象者として協力していただく方々の権利を擁護するために、COCの共同研究を含むすべての研究について、研究計画段階で倫理審査を行っています。

そして今年4月施行の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(厚生労働省)によって、この倫理審査に、「一般の立場から意見を述べることのできる者」を入れなければならないことになりました。研究対象者になりうる方々の立場からの意見や、市民の倫理観を審査に反映させることが目的です。

そこで、倫理委員会では、教育ボランティアの皆さんの集まりの際に、倫理審査に一般委員として参加していただける方を募らせていただいたところ、さっそく多数の方にご応募いただきました。今後、毎回1名の方にご参加願いたいと考えております。

他大学では、一般委員の募集に苦勞していると聞いています。本学の場合、日頃から本学の教育にご協力いただいている方々のおかげで、看護にご理解のある方々に審査に加わっていただくことができ、たいへん感謝しております。神戸市看護大学では、現在も活発に学術研究が行われていますが、今後ますます倫理的な研究を行い、教育や看護実践に役立てたいと考えています。

### COCコラボ教育ピックアップ～2015年春「健康行動論」～

平成27年度より新規科目として「健康行動論」が開講しました。健康行動論は、日々の生活習慣や行動がどのように健康に影響し、また健康を維持・増進するうえで、どのように行動の変化を促すのかを学びます。より実践的なアプローチを行なうため、地域住民さんにご協力いただき、生活習慣や健康に関するインタビューを行いました。学生は聞き取った内容をもとに、健康行動理論を用いて分析します。健康相談・保健指導を業とする保健師を志す学生には必須の科目です。今回は4年生22名の学生が小グループに分かれ、7名の住民さんにご協力いただきインタビューを行いました。参加された住民の方からは「学生は、話し上手・聞き上手でした」「健康管理をしっかりやりたい」という感想をいただきました。学生の分析結果をもとに、住民の方の健康維持・増進につながることを期待されます。(写真は北須磨文化センターで行なった演習の様子)

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子)

## ■地域の顔～教育ボランティアとしての関わり～

須磨区菅の台地区 教育ボランティア 藤原邦子さん

私は今年2月に地区の民生委員さんから「ボランティア活動をやってみませんか？」とお声を掛けて頂き、初めて神戸市看護大学の取組みを知りました。そして、2月に教育ボランティアとして実習に参加し、3月の教育ボランティア交流会にも参加させて頂きました。

伺った神戸市看護大学は自然豊かで美しく、お優しい先生方、学生さん達がいらっしゃる素晴らしい大学でした。以前通っていたシルバーカレッジの取組みによるS.P(Simulative patient)の活動で、神戸大学、神戸薬科大学等に行かせて頂いたことがありました。医学部、薬学部、看護学科の学生さん達の練習台となり、患者さんとの接し方を学んで頂くことを目的とするものでした。今回の神戸市看護大学でも、普段なかなか話す機会がない大学の先生方や学生さん達と触れ合いながら元気を頂き、学ばせて頂くことも多く、楽しいひとときを過ごすことができました。

今後、神戸市看護大学もこのような取組みを通し、私達近隣住民とつながり、安心を与えて下さることを本当に嬉しく思います。参加無料の「まちの保健室」のことも、この度初めて知りました。このところ、もの忘れがひどく、「もの忘れ看護相談」に参加させて頂きたいと楽しみにしております。

神戸市看護大学のCOC事業がより広く、多くの人々に伝わり、若い学生さん達や先生方と共に健康で幸せな地域となりますように、私も元気なうちに今自分に出来ることから少しずつでも参加させて頂き、励んでいきたいと思っております。



筆者が参加した  
「教育ボランティア交流会」  
教員と教育ボランティアさんとの  
グループワークの一幕

## ■地域づくり・健康づくり～社協から～ 住民のみなさんと考える“地域福祉の担い手支援”

須磨区社会福祉協議会 地域福祉ネットワーク 榎一美紀さん

2025年には4人に一人が75歳以上の超高齢社会が到来するといわれる中で「地域福祉の担い手不足」は大きな課題の一つです。しかし、地域の福祉活動がなされていないかという点も全くそうではありません。住民主体で行われているボランティア活動の裾野は広く深いものです。

須磨区社会福祉協議会では「地域福祉ネットワーク事業」として、地域で長く取り組まれている「ふれあい給食ボランティア」や「友愛訪問ボランティア」等の地域福祉活動について振り返り、次世代の担い手について考える場を持ちました。取り組みについては「私たちの須磨！～顔の見える地域づくり～」と題して報告会を開催し、ボランティア活動者を中心に、行政・専門職・社協など様々な立場の参加者が約200名集まり、地域福祉の担い手支援について考えました。その際の提言をまとめたものをご紹介します。

- ①「地域にとって必要な活動」、みんなが（受け手も担い手も）「楽しい活動」をつくろう！  
新たな担い手を増やすには、まず「やってみよう！」と思える活動であることが大切。
- ②いろいろな人の「力」を活かしていこう！（本当の意味での「協働」を）  
いかに多彩な人々が各々の特長を活かして協力できるかが、協働の「肝」。
- ③「継続」の力を、次の世代への「バトン」でつないでいこう！  
地域の活動では次世代への「バトンタッチ」を強く意識することが求められています。
- ④みんなの“思い”を共有するための「学習」の場を大切にしよう！  
“思い”を共有し、共通の目標をめざして役割を分担していけるよう話しあう「学習」の場を継続してもつことや、それを発展させて夢を描く「プラン」づくりなども効果的です。
- ⑤しっかり「伝えていく」ことにも力を入れよう！

多くの人に関心を持っていただく工夫をし、知ってもらう工夫をしましょう。以上の提言をもとに、今後も地域の皆さんとともに考え、発信する場を作っていきたいと思っております。



コスモちゃん  
須磨区社会福祉協議会  
イメージキャラクター

## 【コラボ教育での学び】 ～看護師経験をもつ学生として思うこと～

神戸市看護大学 編入3年生 中塚絵理

神戸市看護大学には、子育て中の方々のふれあいの場となるコラボカフェでのボランティアなど、地域の方々と接する場が多く設けられています。また、地域保健論という授業の中では、実際に教育ボランティアさんに対して、グループで保健指導をおこなう部分もあります。このように、学生同士ではなく実際に地域に住む人々を対象とすることで、住民の方々のニーズや、反応、理解度などをよりリアルに見ることができると思います。最近では保健指導の内容が簡単すぎるという声もあるらしく、住民の方々の健康に対する関心の高まりを感じています。

私は編入3年生なので、入学する前は看護師として地域医療に携わっていましたが、患者さんが今まで慣れ親しんだ環境の中で療養できると、やはり強い安心感があるのか、入院中は暗かった表情が、在宅に変わったとたん生き生きとしていく様子を目の当たりにしました。このように、地域・在宅での療養は患者さんにとってプラスなことが多い反面、家族の負担が増えることも多く、患者さんを含めた家族全体をどのように援助していくかが今後の課題であると思います。私は今までの経験の中で、地域・在宅医療に関わっていくためには、幅広い知識やコミュニケーション能力ももちろん大切ですが、この地域が好きで、そこに住む人たちのために頑張りたいと思える気持ちも大切ではないかと感じています。必修授業の関係で残念ながら私は受講ができませんでしたが、1年生の選択授業に「神戸学」という科目があり、地域の文化や歴史を学問として学べる環境があるということに、とても驚き興味を持ちました。これから神戸という地域をもっと知り、卒業後の看護に生かせるように頑張っていきたいと思います。



27年度入学の編入学生たちと  
(筆者は前列中央)

## 【COC 研究ひろば】 第3回

～「もの忘れ看護相談」活動を基盤とした地域住民への支援を考える～ 後編

神戸市看護大学 老年看護学分野 講師 清水昌美

前編では、現在取り組んでいる研究（テーマ：認知症の高齢者と家族が地域で暮らす力を獲得していく過程と支援のあり方の検討）の基盤となる「もの忘れ看護相談」活動についてご紹介しました。後編では、昨年度からの研究経過をご報告します。

本研究では、もの忘れや認知症に関する悩みを持つ方々やその支援者が、地域の資源を有効に活用しながら、今後の見通しを持った生活を送る一助となるような情報を発信したいと考えています。情報発信に先駆けて、平成26年度は「もの忘れ看護相談」の来談者の相談内容（主訴）を分析しました。具体的には、平成24年3月～平成26年7月に個別相談を受けた43件（継続利用および電話での対応を含む）のうち、研究同意が得られた延べ34件の個別相談記録から、主訴に関する内容を取り出し、内容別にグループ分けをしました。その結果、【もの忘れ・認知症に関する知識や情報を得ることへのニーズ】、【もの忘れ・認知症の中核症状に関する相談】、【認知症のBPSD（行動・心理症状）やその対応に関する相談】、【今後の見通しに関する相談】、【受診に関する相談】、【介護保険サービスに関する相談】、【介護負担に関する相談】、【独居の認知症の人についての相談】、【認知症以外の健康相談】の9つのグループができました。

今後は、これらの主訴に対して知っておいたらよいことや同じような悩みを持つ人の生活状況などを組み合わせる架空の事例（モデルケース）を作成し、ホームページなどでご紹介したいと考えています。相談活動とともに進めていく研究なので、どのような形になるのか予測しづらいますが、成果が楽しみです。研究メンバーと力を合わせて一步一步進めていきたいと思っています。



筆者(前列左端)と共同研究メンバー

## 活動予定

### 7月

コラボ教育「地域の保健室」  
看護学生が健康測定を行います  
健康と生活についていっしょに考えましょう

16日(木)・28日(火)

14:00～16:00

場所：菅の台地域福祉センター

9日(木)・21日(火)

14:00～16:00

場所：竜が台地域福祉センター

上記地区周辺の方対象

予約不要

### 9月

#### ミニ健康講話

6、7月のコラボ教育「地域の保健室」の測定結果をふまえ、健康講話を行う予定です

10日(木)

場所：竜が台地域福祉センター

15日(火)

場所：菅の台地域福祉センター

### 8月

8日(土)・9日(日)

10:00～15:00

受付 9:30

神戸市看護大学  
オープンキャンパス

COCコラボ教育の体験や  
学生からのレポートもあります  
受験生歓迎!

場所：神戸市看護大学  
北館2階

## お知らせ

### 学生の地域への関心が高まっています!

コラボ教育「地域の保健室」<sup>®</sup>は、今年度で2回目です。昨年度は、地域にお住まいの皆さんが延べ254名参加されました。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。

上記日程以外に、6月にも「地域の保健室」を実施します。

竜が台地域福祉センターは、6月2日(火)、11日(木)、16日(火)、18日(木)の4回、菅の台地域福祉センターは、6月9日(火) 23日(火)の2回です。

※授業の一環として、須磨区北部で展開しています。

## COC編集部門のつぶやき

やさしい学生が増えている。けれどもそれは、意見対立を、議論をする中で乗り越える意欲と実践経験が不足している学生が増大しているということ、なのではないか。例えば、授業で、学生にプレゼンさせる。批判的コメントがフロアから出ることはほとんどない。学生のレポートに赤入れをして(匿名化後)、配布する。「一方的非難をしてはいけないと思います」という「第三者」からの「やさしさ表明」が、授業終了時回収のコメントシートに書かれてくる。そう思ったなら、授業中に発言すればよいのに……。これは、大学の危機である。せっかく対面式の授業をしていますが、受容的コミュニケーションばかりでは、学習効果が出ないからだ。COC事業のモットーは「地域住民と共に学び、共に創る」だが、「共に学ぶ」中身には、健全な相互批判精神の発揮ということも含まれるだろう。とするのなら、そのことは、地域の課題であると同時に、今の大学自身の課題でもあるのではないか。私の今の問題なのだ、と思っている。

(COC編集部門・YK)

発行所： 神戸市看護大学

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL: 078 (794) 8080

問い合わせ先: kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成27年度 第42号-1 (広報印刷物規格 B-1類)



市看×いちかん

ちいき通信

2015年 秋号

2015年9月10日 発行

## 今号の内容



P1. ・学生にとってのCOC事業  
・COCコラボ教育ピックアップ

P2～3. COCフォーラム

- ・地域の顔  
(竜が台地区 金田正一さん)
- ・地域づくり・健康づくり  
(北須磨文化センター  
センター長 北野茂樹さん)
- ・コラボ教育での学び  
(2年生 我那覇 貴)
- ・COC研究ひろば 第4回  
(地域・在宅看護学  
宇多みどり)

P4. 活動予定

“いちかん” (い) 一緒に、(ち) 地域づくりについて、(かん) 考える をコンセプトにしています。

## 学生にとってのCOC事業

神戸市看護大学 基礎看護学分野 講師 玉田雅美

近年、核家族化が進み近隣との関係も希薄化してきていますが、本学の学生たちも家族や友人以外の世代の人と接する機会の少ない生活を送っています。そのような学生にとって、地域住民の方と接することのできるCOCコラボ教育、特に学外での演習は、看護学生として、また人として成長できる貴重な気付きや学びの場となっているように感じます。

本学の授業科目である基礎看護技術演習においては、生活援助技術(洗髪や足浴等)や診療の補助技術(採血や注射等)、フィジカルアセスメント(血圧測定等)など、看護を実践していくうえで必要な技術を学んでいます。この学内演習では、学生同士で患者・看護師役をとりながら練習することが多いため、友達同士という恥ずかしさや学生の生活体験の乏しさなどから、学生が患者への配慮や心遣いについて気付き、学んでいくことには難しさもあります。しかし、学外演習では、

短い時間ですが、地域住民へのインタビューや健康測定を通して、その人の人生や価値観に触れることができます。そこから、学生は看護者としての基本である、言葉遣いや立ち居振る舞いだけでなく、人生の先輩として対象者を尊敬すること、対象者の想いや価値観を大切にすることの重要性にも気付くようになっていきます。看護を実践するには、知識や技術も重要ですが、その人を全体的にとらえることも重要になってきます。学生たちは、まだ看護者としての自分を模索中ですが、学外演習をはじめ、このCOC事業を通しての気付きや学びを、これから出会う患者や利用者、住民の方とのかかわりの中で生かしていけるように、そして、その人を看ることができるよう看護職となれるように努力を重ねています。私達、指導に当たる教員も、住民の皆様のご協力を賜りながら、今後も学生の学びを支援していきたいと思っています。

## COCコラボ教育ピックアップ～2015年秋「基礎看護技術演習Ⅲ学外演習」～

昨年度から2年生が地域の交流拠点に出向き、住民の皆さんにヘルスイタビューと健康測定を実施しています。地域で暮らす住民との交流を通し、「相手に理解しやすく伝えることの大切さと難しさ」「関心をもって向き合うこと」など、学内では体験できない学びを得ています。演習後のカンファレンスでは、「これからは病院でも『患者』としてではなく、『地域で生活している人』という見方を常に忘れないようにしたい」、「病気はなくすものだと思っていたが、自分の病気や身体の変化に向き合い、病気による不自由さも含めその人の生活が成り立つように支援することも看護の役割だと思った」などの気づきや学びがありました。住民の皆さんとの交流で学生の表情が変わり、「援助職者」としての意識づけや地域の暮らしの理解につながっていることを感じました。地域の皆様からも、「学生の学びの役にたきたい」「ぜひ毎年継続してほしい」というお声を頂いています。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター助教 石井久仁子)

## 地域の顔～地域の福祉にかける思い～

須磨区竜が台市営住宅 4 号棟自治会長 金田正一さん

「地域福祉」を語るとき、福祉に従事する方々やその活動内容について注目されることが多いですが、サービスを受ける側について、もっと話し合う必要があるのではないかと考えます。

神戸市看護大学の学生さんたちは、市営住宅の一室を利用し、より身近な場所で地域住民の方々の様々な悩みに耳を傾け、さらに地域について学ぶべく、日々がんばってくれています。このように、地域住民の目線にたって頑張る看護大学の学生さんたちの思いを、地域住民は素直な心で受け取ってほしいと思います。

時には、手助けしようという気持ちや思いやりがうまく相手に届かないこともあります。しかし特別な事情がある場合を除いて、地域福祉を成り立たせるためには、支援する側と受ける側の「心のふれあい」が必要です。人は一人では生きていけません。たくさんの人に支えられ、助けられ、励まされながら生きていくのですから、支援を受ける側は、素直な気持ちをもって「ありがとう」ということにより、より良い関係を築いてほしいと願います。そうすることで、自然と「心のふれあい」ができ、やがて地域の中で「思いやりの輪」が大きく広がっていくと思います。

これから看護大学の学生さんが地域の中で活動される中で、私たち住民は、心から触れ合える機会をたくさん作っていききたいと思います。



### COC サテライト

#### 北須磨活動拠点 開所式

地域住民、行政、大学関係者により実施された（筆者は、左から3番目）

## 地域づくり・健康づくり

～北須磨文化センターは生涯学習を推進しています～

神戸市立北須磨文化センター センター長 北野茂樹さん

皆さん、ご存じですか。地下鉄名谷駅近くに温水プール・体育館・トレーニング室・大小の会議室、料理室・美術室・陶芸室・音楽室等、各種の特定目的に応じた貸室、4万冊の蔵書を備えた図書室もある文化・スポーツの殿堂があることを。このような多様な施設・設備のそろった施設は市内には他にみあたりません。上手に使って心身の健康増進に役立てていただきたいと思います。

この春から、トレーニング室とプールのセット割引券も新規に設けました。秋には北須磨フェスティバルと称した発表会や展示会等を開催しています。学習のきっかけづくりにお越しいただけたら幸いです。

北須磨文化センターでは「DESIGN MY LIFE」を合言葉とした活動を展開しています。生涯学習をすすめることが、心と身体の健康に有意義であるという報告もあります。また、学んだことを人に伝え、また、それが評価される「知の循環」からなる生涯学習社会が望まれています。北須磨文化センターは、その一助になればと考え、100を超える文化・スポーツの定例講座の他に単発での体験教室や講演会等を随時開催しています。さらに、そのサポートをボランティアの方々にもお手伝いいただいています。スポーツを含めた生涯学習の拠点として活用いただけたらと願っています。

ところで、最近健康的に生きるための、おもしろい話を聞きましたので紹介します。定年になったら気をつけたいことの「カキケコ」というのがあるそうで、カは感動すること。キは興味を持つこと。クは工夫すること。ケは健康であること。コは恋をすること。だそうです。80代になった時の「カキケコ」と言うのもあるそうで、カは風邪をひかないこと。キは気を病まないこと。クは食い意地をはらないこと。腹八分目ということですね。ケは血圧をはかる。コはこけないこと。だそうです。なるほどと思われた人も多いのではないのでしょうか。何歳になっても、いろいろなことに興味を持って前向きに楽しく生活するというのが基本のようですね。

北須磨文化センターでは、神戸市看護大学生による健康相談会・認知症サポーター養成講座等で連携を進めるなど、今後とも地域住民の方々が健康に暮らせるような事業には積極的に協力し進めていきたいと思っています。



神戸市立北須磨文化センター



## コラボ教育での学び ～世代を超えた交流の効用～

神戸市看護大学 2年生 我那覇貴

学生が地域の方々と接することで学ぶ「コラボ教育」には様々な内容のものがありますが、その中で私たち2回生は今回、「地域の保健室」として看護学生が地域住民の方々の健康測定を行いながらお話をお聞きし、地域の方々と一緒に健康と生活について考えるという活動を行いました。「地域の保健室」に参加される地域の方々には高齢の方が多いのですが、その方々が日ごろどのような生活を過ごしておられるのか、また、健康について不安に思っていること、気をつけていることや工夫していることについて、お話を聞かせていただきました。

私が普段生活している中では地域の高齢の方々と接する機会は少なく、日頃の生活の様子、また、どのようなことを気にしておられるのかについてお話を聞く機会がなかったので、実際にお話をお聞きして新しい発見がいくつもあり、とても良い経験をする事ができました。やはり、私達とは生活のリズムも違いますし、健康に関して気になる事柄やその対策などにも違いがあるのだなと感じました。例えば、腰痛に対して板の上で寝たらよくなるという情報を知り合いから聞いて、それを試されていたり、公園の遊具を使って自分なりの運動をされていたりと、自分の健康のために自ら積極的に情報を得て、それを実践されている方々がおられました。

また、住民の方々と接してみて感じたことは、すごく楽しそうに話をされているということです。私達のような若い人と話す機会は、私たちが地域の高齢の方々と話す機会が少ないのと同様に少ないようです。そのため、私たちが地域の方々と話すのを楽しみにしていたように、地域の方々は私たちと話すのを楽しみにしてくださっていました。

私は今回の経験を通して、これからの地域づくりにはこのような世代を超えた交流の場と活動が増えることが必要だと改めて感じました。これまでのように、学生は学生とのみ、高齢者は高齢者だけというのではなく、世代を超えた関わり合いが増えることが地域を元気にしていくのだと思います。高齢者が多くなり子供が少なくなっている今の時代、世代を超えた、もっと気楽に参加できるコミュニティーの場が増えることで地域は活性化されると思います。



基礎看護技術演習 III 学外演習

竜が台地域福祉センターでの学外演習にて(筆者は、後列右端)

## COC 研究ひろば 第4回

～医療・保健・福祉・介護における「多職種連携」の組織づくりを考える～前編

神戸市看護大学 地域・在宅看護学分野 講師 宇多みどり

我が国はかつて経験したことのない超高齢化社会を迎えようとしています。これにともない高齢・独居世帯が増加し、在宅医療・介護の現場では、加齢および認知症を含む疾病による身体機能低下や、施設（入院）から在宅への移行を促す政策による「在宅での看取り」の支援など多くの課題を抱えています。そのため、従来の医療や介護の支援のみならず、福祉や地域の見守りなど様々な支援が切れ目なく提供されるシステムが必要とされています。これは「地域包括ケアシステム」と呼ばれ、多種多様な職種が目的と情報を共有（連携）し、各々の専門性を生かして役割を分担するというものです。

須磨区では、平成24年に訪問看護ステーション連絡協議会が中心となり自主グループである「須磨区多職種連携を考える会」が立ち上がりました。この会は、より充実した地域ケアシステムの構築を目指し、日頃あまり顔を合わせる機会のない実務者同士が顔の見える関係性を築くために、年2～3回「多職種交流会」を開催しています。運営は主に、須磨区の医療・福祉・介護の実務者8名ですが、2年間で延べ約700名、27職種の方々が参加されています。COC共同研究では、この会の協力を得て須磨区の「多職種連携」における現状と課題を分析し、地域の特性に沿った「多職種連携」に関する組織づくりの方略を「多職種交流会」参加者のご意見を聞きながら検討しています。

次号後編では、今年8月29日（土）に行われた第6回「多職種交流会」での方略の提案とその結果をご報告いたします。



「須磨区多職種連携を考える会」

運営会議の様子

## 活動予定

### 10月

コラボ教育  
「睡眠を見直そう」  
生活リズムやよく眠るための工夫について  
講義・懇談を行ないます。

14日(水) 10:00～12:00  
場所：須磨パティオホール  
(参加無料/要予約)  
※参加ご希望の方は  
TEL794-8080  
COC事務局まで

### 12月

予定はありません。

2016年も、コラボ教育、  
市民公開講座、  
その他たくさんの活動を  
予定していますので、  
ご期待下さい。

### 11月

コラボ教育  
「ヘルスプロモーション論」  
25日(水) 13:30～15:00  
場所：須磨パティオホール  
(参加無料/予約不要)  
2015年度シンポジウム  
「地域での看取り」  
29日(日) 13:00～16:50  
場所：神戸市看護大学ホール  
(参加無料/定員500名)

## お知らせ

### 2015年度COCシンポジウムの開催

COCシンポジウムが11月29日(日)本学にて行われます。今年度は、「地域での看取り：終末期を地域で過ごすということ」をテーマに、宮崎和加子さん(全国訪問看護事業協会)より在宅・居宅施設における看取りや訪問看護の役割について講演いただきます。また神戸市の看取りの現状として、市内で在宅緩和ケアや、ホームホスピスに取り組まれている看護師、在宅で家族を看取った経験を持つ住民の方にご登壇いただきます。これからの「訪問看護」「継続看護」教育について、学生、教育者、実践者、一般の方と共に考えていく場にしたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

## COC編集部門のつぶやき

教職員の有志で、年1回の駅伝に出ています。1人1人の走る距離は3kmか5kmですので私はわりと“気楽に”参加しています。しかし、やはり普段の練習不足からか思ったタイムを出すことはできず、完走するものの年々タイムが長くなっています。そこで、この4月から週一回ですが昼休みを利用して20分間走る会を結成しました。参加者は、歩いてよくマイペースでグラウンドを周回しています。学生も参加してくれています。4か月ほど経ちましたが、“言いだしっぺ”である私は、頑張って毎回グラウンドに出ています。責任感というほどのことではないのですが、自ら言い出したことなので“継続”できているのだと思います。皆さんも日常のなにかでちょっとした“言いだしっぺ”になってみませんか？

さて、COC事業ニュースレターを発行してこの秋号で1年となります。事業の目的である学生の地域理解のための教育や地域のコミュニティの育成支援事業を理解していただくための情報発信を継続していきますので、これからもご協力よろしくお願いたします。

(COC編集部門・OK)

発行所： 神戸市看護大学

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL: 078 (794) 8080

問い合わせ先: kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成27年度 第42号-2 (広報印刷物規格 B-1類)